

洗えて清潔 アルミ製横笛 ㊦

磐田市池田の金属加工業「山田金属」が自社の加工技術を生かした祭り向けのアルミ製横笛を開発し、販売を始めた。祭りでは竹製の笛(しの笛)が主流だが、今後も新型コロナウイルス感染防止対策を講じた開催が求められる中、丸洗いができる構造にして衛生面に配慮した。



一面見出し

(第三種郵便物認可)

ワイドしずおか

コロナ時代祭りに新風

アルミ製横笛 洗えて清潔

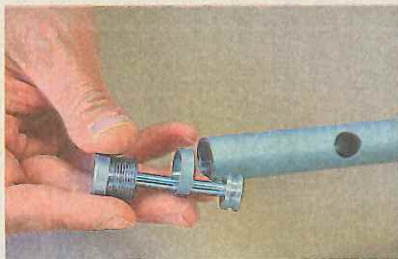
磐田市池田の金属加工業「山田金属」が自社の加工技術を生かした祭り向けのアルミ製横笛を開発し、販売を始めた。祭りでは竹製の笛(しの笛)が主流だが、今後も新型コロナウイルス感染防止対策を講じた開催が求められる中、丸洗いができる構造にして衛生面に配慮した。担い手となる若年層を意識した15種類の多彩なカラー展開でファッション面でも楽しんでもらう。



丸洗いで、多彩なカラーバリエーションをそろえるアルミ製横笛＝磐田市池田の山田金属

磐田の金属加工会社開発 おしゃれな15色

笛は長さ44センチ、直径17ミリ、重さ91グラム。金属の中には、息を吹き入れる歌口でも軽量で、割れたり劣化したりにくいアルミ式にし、取り外して洗うことができる。管頭部が閉じた構造のしの笛は、手入れの難しさがあったという。同社の調べでは



取り外し可能な管頭部の栓

アルミ製横笛の商品化の事例は全国でも少ない。山田金属は二輪や船外機、福祉機器などの部品加工を手掛ける。自社製品の開発を模索していた3年前、穴があり見た目が似た車いすの転倒防止用部品に着想を得た。得意とする直径2センチ以下の長い金属の加工技術、複合加工ができる自動旋盤機を生かし、七つの指穴、6本調子用をベースに開発。吹き手に音色の感度を聞きながら改良を重ねた。音研究の静岡大発ベンチャー「サウンド・コンシエルジュ」(川上福司社長)にも相談し、一曲演奏時の周波数の構造はしの笛とほぼ変わらないとの評価を得た。

商品名は、新風を吹き込みたいとの思いを込めて「酒楽斎(しやらくさい)」。自身も地域の祭りに携わる山田善彦社長(40)は「来年こそコロナが収束し、遠州の祭りの活性化に貢献できれば」と話す。

問い合わせは、山田金属(電話0538(37)7701)へ。(磐田支局・山本雅子)